

## 【授業科目】成人急性期援助論Ⅱ(救急看護)

## Adult Acute Nursing Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
小寺 直美、杉崎 一美、豊田 妙子、吉田 和枝、吉川 尚美	3年次前期	必修	1	30	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	授業概要/救急医療の現状と倫理的課題、救急医療において看護師が果たす役割について概観したうえで、救急医療・集中治療および入院中の急変時における看護実践、および家族に対する看護について講義を行う。救命救急処置の演習や事例の展開を通して、アセスメント・看護技術など救急看護について教授する。課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する、若しくは全体の総評コメントを掲示あるいはプリント配布により公開する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「看護の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき看護を実践できる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①救急医療の現状・集中治療の現状、倫理的課題について記述することができる。 ②救急患者とその家族の心身の反応の特徴を記述することができる。 ③救急・集中治療における系統的な身体・心理状態のアセスメント方法や看護について記述することができる。 ④救命救急看護の目的と意義、一次救命処置が実践でき、二次救命処置を記述することができる。 ⑤救急患者の事例について看護過程を展開することができる。							
時間外学習に必要な内容・時間	第1回【事前学習】救急医療の現状・集中治療の現状についてまとめておく(30分)【事後学習】授業内容に関連した教科書等を復習し、ポイントをまとめておく(30分) 第2回【事前学習】成人看護学概論で学んだ成人期の特徴・理論、フィジカルアセスメントについて復習しておく(30分)【事後学習】授業内容を振り返り、事前学習のノートにポイントを付け加える(30分) 第3~7回【事前学習】教科書を事前に読んでまとめておく(各30分)【事後学習】授業内容に関連した教科書等を復習し、ポイント・学んだこと付け加える(各30分) 第8・9回【事前・事後学習】AEDを用いたBLS、ALSに関する事前・事後学習課題を行う(各30分) 第10回【事前学習】教科書を事前に読んでまとめておく(各30分)【事後学習】授業内容に関連した教科書等を復習し、ポイント・学んだこと付け加える(各30分) 第11回【事前学習】急性心筋梗塞の病態生理・検査・治療、看護過程について復習しておく(30分) 【事後学習】事前学習課題に授業でのポイント・学んだことを付け加える(30分) 第12~15回【事前学習】提示された事例について病態生理・治療・看護についてまとめ、看護過程について復習しておく(各30分)【事後学習】グループワークでの学びを振り返りポイントをまとめる(各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回 救急医療の現状、集中治療の現状、救急医療・集中治療における看護: 救急医療の歴史と動向、プレホスピタルケア、集中治療の種類と場の特徴 第2回 救急看護の実際: 救急医療・集中治療下の患者の特徴、緊急度と重症度の判断、全身状態のアセスメント 第3回 集中治療下での看護① 呼吸機能の維持(人工気道、人工呼吸器)、循環機能の維持(心電図、大動脈バルーンポンピング法、経皮的心肺補助法) 第4回 集中治療下での看護② 栄養管理(中心静脈栄養、経腸栄養)、その他(苦痛の緩和、合併症予防、心理・精神的支援等)、ME機器の取り扱い 第5回 救急外来における看護、救急患者の家族に対する看護 第6回 救急看護事例紹介:熱傷患者の看護 第7回 救急看護事例紹介:急性腹症患者の看護 第8・9回 一次救命処置(BLS)の実際・二次救命処置の(ALS)の実際&入院患者の急変 GW *学生を2グループに分け、第8・9回を通して実技演習と講義を設定する 第10回 救急看護事例紹介:クモ膜下出血患者の看護 第11回 救急患者の看護展開:事例紹介(急性心筋梗塞の患者) 第12回 救急患者の看護展開:急性心筋梗塞患者の看護 情報収集・整理・アセスメント GW 第13・14回 救急患者の看護展開:急性心筋梗塞患者の看護 アセスメント GW 第15回 救急患者の看護展開:急性心筋梗塞患者の看護 看護の方向性、留意点 GW							1~4回:小寺 5回:豊田 6回:吉田 7回:杉崎 8・9回: 豊田、吉川、杉崎、吉田、小寺 10・11回 小寺 12~15回: 小寺、杉崎、豊田、吉田、吉川
評価方法 評価基準	筆記試験 70%、看護過程 20%、演習 10%							
教科書	①佐藤まゆみ『急性期看護Ⅱ』南江堂、②本庄恵子他監修『写真でわかる臨床看護技術2』インターメディカ、③ロザリンド・アルファロールフィーヴァ著、本郷久美子監訳『基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版』医学書院(上記②は2年次後学期「成人急性期援助論Ⅰ」、③は2年次後学期「看護過程論」で使用したものを使用)				参考書等		講義中に提示する。	
学生への助言等	急病や事故などにより急激に健康状態が悪化した人々に対する看護について、関心を寄せて主体的に学んでください。疑問に思ったことなど積極的に質問してください。演習時の身だしなみは実習に準じます。授業の写真撮影や録音・録画は禁止します。							